

みんなとともに笑顔いっぱい - 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 -



みんなとともに



暗くなるのが早くなりました。また、会津からは雪の便りが届きました。「冬」がそこまで来ています。このように書くと「冬」を忌み嫌っているような感じになりますが、雪が降ると雪遊びはできますし、外で遊べない分室内での遊びを充実させることもできます。冬には冬の“楽しみ”があるようです。大切なことは「そのとき」にしかできないことを「そのとき」に十分楽しむことだろうと思います。



「お伝えしたいこと」が2つあります

1 「文集『すかわ』」は「昨年度のもの」で終わりにします。

「PTA 理事会」でも話をしましたが、「文集『すかわ』」の作成は今年度以降行いません。小学校生活の記念として、「卒業アルバム」に「卒業文集」がありますので、そちらを「思い出の品」として残していただきたいと思います。

三年前の作成の様子を見て大変な作業だと感じていたので、二年前は保護者の皆様に「ボランティア」をお願いして「打ち込み作業」をしていただいたり、印刷作業を校外の方に手伝っていただいたりして完成させました。昨年は2学期に「意見文」を書く活動をしながらかち込み作業をし、「web版『すかわ』」を本校「web ページ」に載せました。いろいろ工夫をしながら継続する道を探ってきましたが、学級数の減少により職員数が減少している本校の実情を勘案し、校長として「やめる」決断をしました。

楽しみにしていた保護者の皆様には、大変心苦しく思うところですが、ご理解をお願いいたします。

2 「市鼓笛パレード」に向けた取組についての「見直し」を図ります。

福島地区(市)小学校長会では、「市鼓笛パレード」へ向けた取組について協議をしてきましたが、練習が負担過重になっている現状を踏まえ、各校での取組について「視点」を設けて見直すことにしました。本校でも今後見直しを図っていきます。その結果については改めて伝えさせていただきます。

【見直しの視点】

- 「練習総時間」を見直し、限られた時間の中でよりよい演奏を目指す。
- 「楽器編成」を見直し、児童の実態に合った演奏を目指す。
- 「演奏曲」を見直し、学校の特色を大切にしたい演奏を目指す。

【校長のつぶやき】 その98 「教育的意義」

「教育的意義」とは何だろう。というのは、あることで「教育的意義」が「ある」か「ない」という意見交換を随分したからである。「同じもの」を見ていても、捉え方で“180度”見方が変わることを知った。

でも考えてみると、「教育的意義がない教育活動は一つもない」とも言える。それは、「すべての経験には意味がある」からである。“二つの道”があったときに、“経験しなかった道”はすでに消えている。“自分が経験した道”しか「学び」にはならないので、それは「教育的意義」があったということになる。

さて、今年度も次年度の構想を考える時期が近付いてきた。「あれもこれも」はできないので、子どもたちの実態をとらえながら「学ばせたいこと」「体験させたいこと」を選び、それを「必要な時期」に配列していくことになる。そのときに大本になるのは「教育目標」である。言わずと知れた本校の教育目標は、「みんなとともに笑顔いっぱい」である。「まなびあい」「みとめあい」「たかめあい」を大切にしながら、残り4か月を子どもの「笑顔」を実現するために尽力するとともに、次年度のよりよい計画づくりに臨む覚悟である。

【校長のつぶやき】 その99 「自画自賛」

教師は「反省」が大好きである。最近あまりやらないが、「反省文」を書かせて反省を促すという方法をよく用いた。でも、「反省」という方法は、ベクトルが「過去」に向いているし、凹凸の「凹」に目が向いている。「できない自分」に目を向けても、気持ちは上向きにはならない。

今年の7月、東北地方の小学校長が集まる研究大会が福島市を会場に行われる…はずであった。しかし、コロナ禍のため「紙面」での開催となった。10月末に東北各県の小学校長の代表がオンラインで集う理事会が行われたが、その際に設定された実行委員長の御礼の場で、私からは「反省」ではなく「自画自賛」をさせていただいた。「コロナ禍での紙面開催を成功に導いたこと」「紙面開催ではあったが分科会での研究を充実させたこと」「主催の福島県小学校長会、実行委員会を務めた福島地区小学校長会の底力を確認することができたこと」叩けば「埃」はいっぱい出てくるのだが、「良い面」にだけ目を向けさせていただいた。

日本人は謙虚さを好むので「自画自賛」をした私は陰で笑われているかもしれないが、福島大会に取り組んだ私の「自己肯定感」はより高まり、そのことでの“心身の状態”はすこぶる「健康」である。